

2017年度（第67回）北海道ミッドアマチュアゴルフ選手権予選競技

開催日：2017年8月27日(日)

会 場：札幌芙蓉カントリー倶楽部

本競技においてはこのローカルルール・競技の条件と日本ゴルフ協会ゴルフ規則を適用する。
別途規定されている場合、または適用規則が明示されている場合を除き、ローカルルールまたは競技の条件の違反の罰は、2打。

ローカルルール

1. アウトオブバウンズは白杭で定める。(定義 40)
2. ラインのアウトオブバウンズの標示は白杭に黒テープを巻き標示する。
3. No.2(南コースNo.2)、No.3(南コースNo.3)、No.6(南コースNo.6)、No.7(南コースNo.7)、No.8(南コースNo.8)、No.12(中コースNo.3)、No.13(中コースNo.4)、No.17(中コースNo.8)ホールにおいてアウトオブバウンズの標識(白杭に黒テープ)を越えていった球は、球がその向こう側のコースに止まっている場合でも、アウトオブバウンズの球とする。
4. No.15ホールにおいて、球がラテラル・ウォーターハザード内に入った場合、球が見つからないが、ラテラル・ウォーターハザード内にあることが分かっているか、ほぼ確実な場合、ゴルフ規則 26 に基づく処置、または追加の選択肢として1打の罰のもとにドロップ区域に球をドロップすることができる。**この規定に関して指定ドロップ区域に球をドロップまたは再ドロップする場合、付属規則 I (A) 6 の注が適用となる。**
5. 異常なグラウンド状態
 - (a) 修理地は青杭を立て、白線をもってその限界を定める。
 - (b) 張り芝の継ぎ目；付属規則 I (A)3e を適用する
スルーザグリーンの張り芝の継ぎ目(その芝自体を除く)は修理地とみなされる。しかしながら、継ぎ目がプレーヤーのスタンスの障害となっても、それ自体は規則 25-1 に基づく障害とはみなされない。
球がその継ぎ目の中にあるか、触れている場合、またはその継ぎ目が意図するスイング区域の障害となる場合、規則 25-1 に基づいて救済を受けることができる。張り芝の区域内のすべての継ぎ目は同じ継ぎ目とみなされる。(ゴルフ規則 164p 参照)
 - (c) パッティンググリーンの奥行きを標示するためのペイントマークは修理地とみなされる。しかしながら、ペイントマークがプレーヤーのスタンスの障害となっても、それ自体は規則 25-1 に基づく障害とはみなされない。
球がそのペイントマークの中にあるか、触れている場合、またはそのペイントマークが意図するスイング区域の障害となる場合、規則 25-1 に基づいて救済を受けることができる。
6. 次のものは動かさない障害物とする
 - (a) 排水溝
 - (b) 人工の表面を持つ道路に接した排水溝(その道路の一部とみなす)
 - (c) 動かさない障害物に接している他の動かさない障害物は一体の障害物とみなす。
 - (d) 動かさない障害物に接し白線で繋がれた区域は、修理地ではなく、その障害物の一部とみなす。
 - (e) 障害物によって囲まれた部分はその障害物の一部である。
7. 電磁誘導カート用の2本のレールは、その2本のレールの全幅をもって1つのカート道路とみなす。
このカート道路によってプレーヤーのスタンスや意図するスイング区域に対して障害が生じる場合、あるがままの状態プレーするか、規則 24-2b に基づく救済を受けるかどうかはプレーヤーの選択である。
一方、球がこのカート道路上にある場合はあるがままの状態プレーすることはできず、プレーヤーは規則 24-2b に基づく救済を受けなければならない。
8. コース内にある防球ネットによる障害(ゴルフ規則 24-2a)のため、ゴルフ規則 24-2b の救済を受ける場合には、その障害物の上を越えたり、中や下を通さずにニヤレストポイントを決定しなければならない。
9. パッティンググリーン上の芝張り替え跡は古いホールの埋め跡と同じステータスを持ち、規則 16-1c に基づき修理することができる。
10. パッティンググリーン上で球が偶然に動かされた場合
規則 18-2 と規則 20-1 は以下の通りに修正される。

プレーヤーの球がパッティンググリーン上にある場合、その球やボールマーカーがプレーヤーやパートナー、相手、またはそのいずれかのキャディーや携帯品によって偶然に動かされても罰はない。

その球やボールマーカーは規則 18-2 や規則 20-1 に規定されている通りにリプレースされなければならない。

このローカルルールはプレーヤーの球やボールマーカーがパッティンググリーン上にあり、いかなる動きも偶然である場合にだけ適用する。

注:パッティンググリーン上のプレーヤーの球が風、水あるいは重力などの他の自然現象の結果として動かされたものと判断された場合、その球はその新しい位置からあるがままの状態プレーされなければならない。そのような状況で動かされたボールマーカーはリプレースされることになる。

競 技 の 条 件

1. 競技委員会の裁定

競技委員会は競技の条件を修正する権限を有し、すべての事柄について、この委員会の裁定は最終である。

2. 使用クラブと球の規格

(1) 競技者が持ち運ぶドライバーは R&A 発行の最新の適合ドライバーヘッドリスト上に掲載されているクラブヘッドを持つものでなければならない。

この条件に違反するクラブでストロークを行ったことに対する罰は競技失格。(ゴルフ規則 176p 参照)

(2) 溝とパンチマークの規格 裁定 4-1/1『2010年1月1日施行の溝とパンチマークの仕様とその競技の条件』を適用する。(付属規則 II 5c 注 2 ゴルフ規則 198 ページ参照)

(3) 競技者の使用球は R&A 発行の最新の公認球リストに掲載されているものでなければならない。

この条件の違反の罰は、競技失格。(ゴルフ規則 177p 参照)

3. プレーの中断と再開

① 通常のプレーの中断(落雷などの危険を伴わない気象状況)については、ゴルフ規則 6-8b,c,d に従って処置すること。

② 険悪な気象状況にあるため、委員会の決定によりプレーが中断となった場合、同じ組の競技者全員がホールとホールの間をいたときは、各競技者は委員会よりプレー再開の指示が出るまでプレーを再開してはならない。1 ホールのプレーの途中であったときは、各競技者はすぐにプレーを中断しなければならず、そのあと、委員会よりプレー再開の指示が出るまでプレーを再開してはならない。競技者がすぐにプレーを中断しなかったときは、ゴルフ規則 33-7 に決められているような、罰を免除する正当な事情がなければ、その競技者は競技失格となる。

③ プレーの中断と再開の合図について

通常のプレー中断: 短いサイレンを繰り返して通報する。または、サイレンを使用せず本部より競技委員を通じて競技者に連絡する。

険悪な気象状況による即時中断: 1 回の長いサイレンを鳴らして通報する。

プレーの再開: 1 回の長いサイレンを鳴らして通報する。

4. ホールとホールの間での練習禁止

ホールとホールの間では、競技者は最後にプレーしたホールのパッティンググリーン上やその近くで練習ストロークをしてはならないし、球を転がすことによって最後にプレーしたホールのパッティンググリーン面をテストしてはならない。

この条件の違反の罰は、『付属規則 I (B)5b』を適用する。(ゴルフ規則 181p 参照)

5. キャディー

正規のラウンド中、プレーヤーが委員会によって指定された者以外をキャディーとして使用することを禁止する。この条件の違反の罰は『ゴルフ規則付 I (B)2』を適用する。(ゴルフ規則 179p 参照)

6. スコアカードの提出

本競技においてはエリア方式を採用する。

7. タイの決定

タイの決定方法は該当する競技規定に定める。(マッチングスコアカード方式)

8. 競技終了時点

本競技は、競技委員会の作成した成績表が掲示された時点をもって終了したものとみなす。

注 意 事 項

1. アマチュア資格規則に注意し、参加申込の際は自身のアマチュア資格を確認した上で申し込むこと。
なお、不明な点は日本ゴルフ協会ホームページ(www.jga.or.jp)や日本ゴルフ協会発行の『ゴルフ規則(付)アマチュア資格規則』等を参照すること。
2. 競技の条件やローカルルールに追加、変更のあるときは、倶楽部ハウス内並びにスターティングホール
のティーインググラウンド付近に掲示して告示する。
3. パッティンググリーンに著しく損傷を与えるシューズは使用禁止とすることがある。
4. プレーの進行に留意し、先行組みとの間隔を空けないよう注意すること。プレーの不当な遅延についてはゴルフ
規則 6-7 を適用する。(ゴルフ規則 70p 参照)
5. 競技当日のスタート前の練習は指定練習場で行い、打放し練習場においては備付の球を使用し、1 人コ
イン 1 枚 (30 球) を限度とする。
6. No4、No7 ホールに落下地点確認のためフォアキャディーを配置し、旗を掲げて指示する。
赤 旗 : 落下地点に前の組がいるのでプレーしてはいけない。(必ず指示に従うこと)
白 旗 : 落下地点があいているので、プレーできる。
青 旗 : アウトオブバウンズまたは紛失の恐れがある。(暫定球のプレーを勧める)
7. 競技委員会は競技中を含めいつでも、出場に相応しくないと判断したプレーヤーの参加資格を取り消す
ことができる。
8. 競技委員会は規則 33-7 に基づき、エチケットの重大な違反があったプレーヤーを競技失格とすることが
ある。

競技委員長 川 昌司